

第13回 木曾三川下流域自然再生検討会

【木曾川ワンド再生・ケレップ水制区間での 試験施工に係る検討状況について】

令和3年3月

国土交通省 木曾川下流河川事務所

ケレップ水制におけるワンド再生の検討経緯

1. 自然再生計画書における位置付け

- 自然再生の対象：干潟・ヨシ原・ワンドの再生を行う。ケレップ水制群におけるワンド再生については、周辺域へ及ぼす影響が不明のため、モニタリング結果に基づき内容を見直しながら試験施工を行う。
- 整備目標：ケレップ水制間の陸地化を抑制し、緩流環境を必要とするトンボ類、タナゴ類が繁殖地として利用できる基盤環境を再生する。
- 整備予定箇所の選定の考え方
 - ・ケレップ水制周辺の陸地化が進行している場所。
 - ・工事による影響を低減するため、直下流に良好なワンドが形成されている場所は除外。
- 整備予定箇所：木曾川右岸 17.4k～24.0k

引用：「木曾三川下流域自然再生計画書、H24.3」

2. これまでの検討経緯

- 平成23年度の自然再生計画の策定後、平成27年度より具体的にケレップ水制群周辺のワンド再生に関する検討を実施。
- 平成30年度より、愛西市かわまちづくり計画策定支援を実施。19k地点周辺を対象に検討を実施中。

年度	検討内容
平成23年度	・自然再生計画策定に際し、ワンド再生の手法を複数案検討
平成27年度	・ケレップ水制区域環境保全方針、整備方針の検討、整備目標の検討、整備対象区間の設定、整備手法の検討
平成29年度	・愛西市かわまちづくり計画の策定支援として、ケレップ水制周辺整備としてワンド再生整備イメージを検討
平成30年度	・かわまちづくり計画箇所(木曾川右岸19.0k付近)において、ワンド形状の維持につき、物理条件からの検討
令和元年度	・愛西市かわまちづくり利用方法に関するワーキング

ケレップ水制におけるワンド再生の検討状況

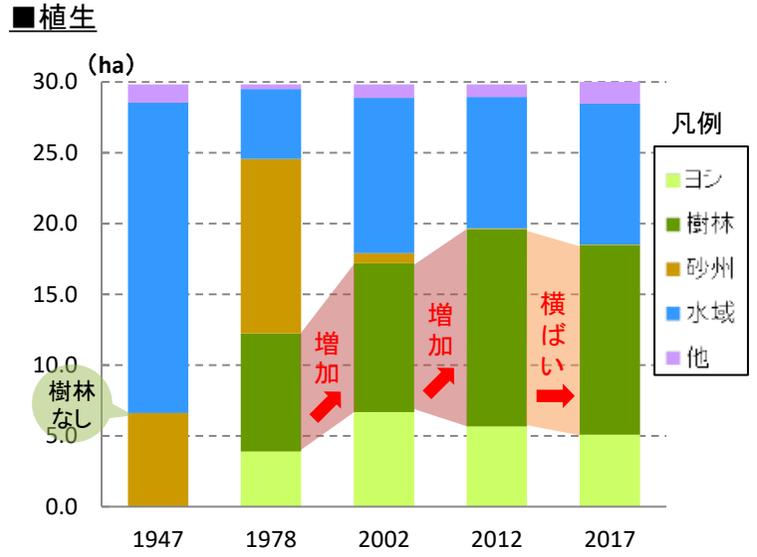
1. ケレップ水制におけるワンド再生の目的

1980年代から木曾川右岸11km～26kmに位置する、ケレップ水制間において樹林化が進行し、ワンドの機能や環境が消失する状況が観察されている。そこで、土木学会選奨土木遺産に認定されており、文化的な価値も併せ持つケレップ水制の機能を回復させるとともに、愛西市かわまちづくりの水辺拠点としての利用促進や、樹林化した水辺環境の改善を目的として、ケレップ水制におけるワンド再生を行うものとする。

2. ケレップ水制区域における現状の課題

- 環境面
 - ✓ 樹林化に伴う河川環境の変化(植生や生息・生育する生物等)
 - ✓ 土砂の堆積による砂地の減少
 - ✓ 河川景観の悪化(樹木等の繁茂により堤防から川が見えない等)
- 利用面
 - ✓ 樹木等の繁茂により、人の立ち入りや利用が困難
 - ✓ 樹木や植生の繁茂により、見通しが悪く、視野が確保できない

河川環境の主な変化



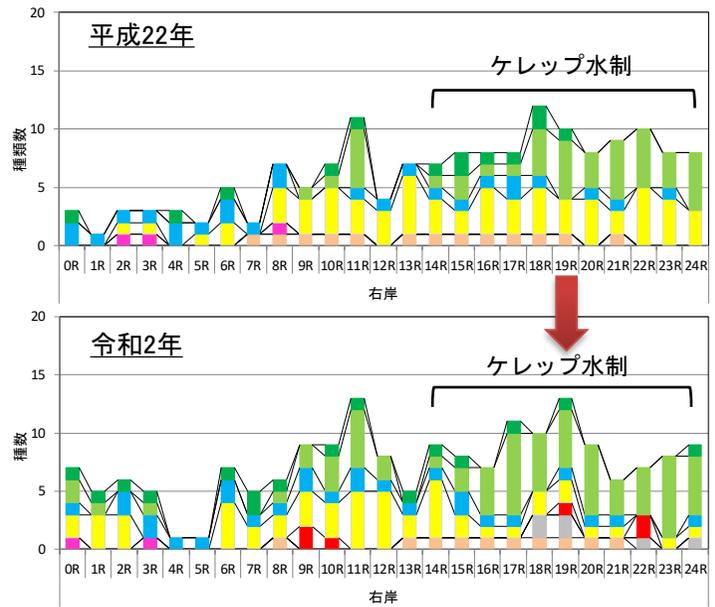
- 樹林が増加傾向であり、最新の水国調査結果(H29年)ではヨシ原の面積がやや減少。
- 水国植物調査(H23年)では、木曾川において汽水性の種及び水生植物の減少傾向、樹林性の種の増加傾向が確認されている。

■河川景観



樹林化が進行しているケレップ水制No.55(左岸18.4k:2016年5月31日撮影)

■鳥類



- 林縁・疎林の種が増加傾向であり、ウグイスの繁殖、ホトトギス、コゲラ、シジュウカラ、エナガ等が多数確認されている。
- 一方で、草地・農地の種は減少が確認されている。

- 凡例
- 渉禽
 - 林縁・疎林
 - 水鳥
 - 草地・農地
 - 上位性
 - 水辺
 - 樹林
 - 湿性草地

鳥類相の変化状況(出典:R2河川水辺の国勢調査結果速報)

※H27木曾三川下流部環境整備計画検討業務報告書データを用いて作成。

ケレップ水制におけるワンド再生の検討状況

3. ワンド再生の基本方針の検討

- ケレップ水制におけるワンド再生としては、「利用」、「環境」(景観も含む)、「維持管理」の面から、再生方針を整理。
- 現状の河川状況や社会情勢を踏まえて、再生における目標年代の設定等はせず、実現可能な再生内容とする。
- 利用面: 愛西市かわまちづくりの拠点としての機能を備えた整備検討の実施。(緩傾斜法面、散策路の整備等)
- 環境面: 自然再生や多自然川づくりの面からの整備検討(ヨシ原、浅場の創出や樹木伐採による生物相の回復、景観の改善)
- 維持管理面: 樹木伐採後の再繁茂抑制、人の利用を踏まえた樹木配置の検討(散策路の周囲のみ配置、人の立ち入りによる繁茂抑制)、河道特性を活かした水域の設定。



4. 今後の予定

- 次年度は上記基本方針を踏まえ、ワンド再生の予定箇所(3箇所)において、配置デザインの検討を行う。
- 検討した配置デザインに基づき、詳細設計を実施する。
- 地域の方を対象とした現地見学会の開催により、地域からの意見を反映。

